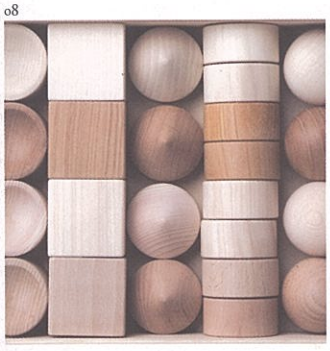
ゲスト審査委員賞

Prize of guest judge

08



ゲスト審査委員賞（下川一哉賞）・
奨励賞（地域産品部門）
「maru つみ木」

企業　：独楽工房 隈本木工所
　　代表者 隈本知伸
デザイン：福岡県工業技術センター
　　インテリア研究所 所長 井本 誠二

●審査講評 下川一哉
隈本木工所が出品した「maruつみ木」にゲスト審査委員賞を贈る。木材を知り尽くした木工メーカーらしいモノ作りと、現代の安全・安心志向に基づいた子供向けのハイデザインが融合した製品の在り方に、素直に共感できた。
木目や色、手触りや温もりの異なる4種類の木材、ミズキ、ケヤキ、ヒノキ、ブナを駆使し、円形や球形を造形の核とする新しい積み木の形や遊び方の提案に斬新さを感じる。100%国内材に限定し、無塗装のため、子供が無意識に口にしても安全。また、絶対に飲み込めないサイズと形状にしたことも、この製品のあり方を明確にしている。

09

ゲスト審査委員賞（廣村正彰賞）・
奨励賞（地域産品部門）
「ふところがみ」

企業　：株式会社 中村製紙所
　　取締役社長 中村 貴
デザイン：SUEP. 代表 末光弘和

●審査講評 廣村正彰
和紙は素晴しい能力を持っている。繊維が長くしなやかなため薄くても強靭で、水分を含んでも簡単に破れたりしにくく、そのために古くから日本では建築素材の一部としても使用されている。
中村製紙所の「ふところがみ」はこの特性を活かした和紙のティッシュである。名前の通り和装の懐紙からきているものの、その用途は包装紙やナプキン、肌触りの良さであぶら取り紙などとしても使えるように考えられており、発想の転換と可能性に期待しての受賞となりました。今後は用途による大きさや枚数の検証、パッケージデザインの開発を期待します。

井筒屋賞

Prize of IZUTSUYA

10

井筒屋賞・
奨励賞（日用品部門）
「あまおう〜苺のお酒〜」

企業　：若波酒造 合名会社
　　代表社員 今村 壽男

●審査講評 中村眞人
「あまおう」という県特産の話題の苺を使ったお酒を創るという発想をまず評価した。
薄紅色のお酒を細身のボトルに入れて、いかにも女性を意識した可愛さを感じさせてくれる。女性の杜氏ならではのお酒であり、低迷が続くといわれる酒醸造業界の中で、何とかユニークな製品を世に出したいという強い思い入れが感じられる一品である。

奨励賞

Encouragement prize

11

奨励賞 日用品部門
「歩紀行（ほきこう）」

企業　：株式会社 アプレス
　　代表取締役 本田和富
デザイン：株式会社 コピー制作室
　　代表 田中裕之

●審査講評 かねこしんぞう
人にとって快適に歩くということは、毎日の生活にある大事な行動である。中でも長時間の歩行を余儀なくされる営業職の人や立ち仕事のお店などの販売業の人など、足の疲れやむくみや臭いなどの解決を商品力としているのが、このインソール「歩紀行」である。といっても単なるシート状の既存の商品と大きく異なる商品訴求が、ジェルが内包された形状にある。足の裏全体に接した部分にジェルの緩衝剤があり、その流動が節度良くあるように制御する「留め」が工夫されている。その「留め」の形がちゃんとデザイン化されており、商品全体のシルエットとしてのデザインが完成されている。

12

奨励賞 日用品部門
「黒豚コラーゲンプルーナ」

企業　：黒豚コラーゲンプルーナ
　　代表 三浦織江

●審査講評 大倉紀子
日本女性のアンチエイジング熱は世代を超えて拡大の一途であり、コラーゲンを使用した化粧品もすでに数多く見かけ、後発参入の難しい世界である。この商品の受賞ポイントは、ネーミングにある。食肉としてのイメージしかなかった黒豚を化粧品のブランドとして発想したところが面白い。そのギャップとインパクトで、消費者の心を強く掴みそう。化粧品はリピートアイテム。まず覚えてもらえる、ダイレクトなネーミングは商品開発と同様に大切な企画ポイントである。ただ化粧品には上質感も必要。商品の内容やパッケージにもうひと工夫欲しい。

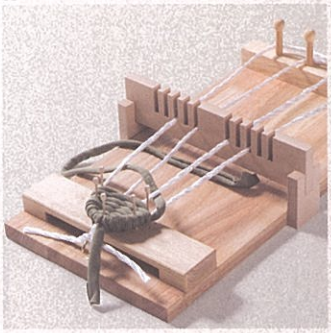
13

奨励賞 日用品部門
「ゆめ〜る封筒」

企業　：総合企画オカザキ
　　代表 岡崎國義

●審査講評 かねこしんぞう
外国映画のシーンなんかで、主人公が格好よく封筒の封を手で破って中の手紙を出したりしている場面があるが、実際にはハサミやペーパーナイフが無いと要領良くは封筒は開けられない。またお年寄りや手足が不自由な方々にとっては、封筒を持って部屋中ハサミを探し歩くことになる。そのような封筒をワンタッチで開けることができるユニバーサルデザインの「ゆめ〜る封筒」。封筒の口の部分に「糸」が仕込んであり、ミシン目で指が掛かるところを引っ張るだけで開封することができる、利便性が機能的に追求された商品として評価された。

14



奨励賞 日用品部門
「櫛歯式布ぞうり編み台」

企業　：有限会社 田中珍味
　　代表取締役 田中正照

●審査講評 大倉紀子
不用になった布地やニットを使って、素人でも30分位で簡単に布ぞうりができる、環境にもやさしい簡易の織り機である。たて糸の立ち上がりにある31個の穴を自由に移動させて、サイズ対応と異なる太さのよこ糸にも対応できるようになっている。しかもその穴の並びのシルエットがぞうりの仕上がりを暗示させる楽しいデザイン性を持っている。リタイヤする人が増え、余暇をどう過ごそうかと考える人も多いはずである。織り機を購入し夫婦仲良くぞうりを編む光景が想像できた。タイムリーであるとともに心やすらぐ商品である。

15

奨励賞 日用品部門
「昭和ちっくエプロン」

企業　：東亜染工 株式会社
　　代表取締役 鐘江守

●審査講評 かねこしんぞう
昔は商店街の店先で酒屋のおやじさんや、青果店のおにいさんや魚屋のおじさんなどがこんな感じのエプロン（昔は前掛けと云っていた）をしていました。きりっとした鯔背な雰囲気が、勢いよい呼びかけ声と一緒に昭和の感覚が甦りそうなレトロエプロンである。今、全国的に和の雑貨が脚光を浴びているマーケットに合った商品企画である。
エプロン前部のデザインは少し変化を持たせてあり、格言風のもの有り、キャラクターデザイン風のもの有りで、男性のみならず女性にも親しまれるようなデザインの配慮もなされていた。

奨励賞

Encouragement prize

16

奨励賞 日用品部門
「からくり織り」(もめんマフラー、クッション、UVカットストール、バンダナキャップ他小物雑貨等)

企業　：合資会社 ロォーリング
　　代表社員 實藤俊彦
デザイン：国立久留米工業高等専門学校
　　教授 藤田雅俊

●審査講評 大倉紀子
環境を意識する人々が増える中で、天然素材は注目の的である。この商品は、素材にこだわり、久留米の伝統である、かすり糸の技術を使いながら若者に人気のあるストールに仕上げている。トレンドを意識する商品ならカラーとデザインは大切な要素のはず。
マフラーは服のポイントとなるので、もう少し彩度のある配色でもよかったのではないかと思う。すべて手仕事の為、単価が上がるのは理解できるが、消費者の希望価格、市場価格への配慮も重要である。価格設定を含め、今後のデザインの開発を期待する。

17

奨励賞 日用品部門
榮 RON

企業　：有限会社 小倉クリエーション
　　代表取締役 渡部英子
デザイン：NEOART
　　代表 加藤真弓

●審査講評 かねこしんぞう
赤と黒のパッケージが大胆な、高級烏龍茶である。旧字体の栄えるの「榮」のロン。昨今多くのファンを獲得している中国茶は、豊富な飲み方のバリエーションや、そのお茶の製法・形状・茶器茶道具に興味を持っている人も少なくない。
そして一般的な烏龍茶の、いわゆる中国風のパッケージが多い中で、この「榮」はオリエンタルな雰囲気が醸し出されながらすっきりとした日本のデザインとなっている。少しデコラティブ（過剰包装）過ぎるという意見もあったが、パッケージという視点だけで判断すると完成度が高いデザインである。

18

奨励賞 日用品部門
「蜂蜜のジャム・蜂蜜のゼリー」

企業　：サン・フカヤ有限会社
　　代表取締役 舩木治

●審査講評 大倉紀子
可能性を強く感じる作品である。健康に対する不安が増幅する中、自然で安心な食品の需要はますます拡大すると思われる。今まで、蜂蜜は塗るか、溶かして食べる。液体食品という概念があった。ところがこの開発だと、蜂蜜を固体として提案できる。
今、スイーツ業界は、若い世代を中心に売上を拡大し、新鮮な商品のデビューを待っている。この開発が成功すれば、狭い範囲での販路しかなかった蜂蜜が、デザートアイテムまで一気に拡大する可能性がある。女性ターゲットの為、ぬき型のデザインやパッケージなども大切である。

19

奨励賞 日用品部門
「みそ茶漬け『ねこまんま』」

企業　：鶴味噌醸造 株式会社
　　代表取締役 吉開元治
デザイン：有限会社 企画屋本舗
　　代表取締役 永江格

●審査講評 かねこしんぞう
お茶漬けやふりかけは普段けっこう嗜む方だが、この「味噌」味のお茶漬けは初めて知りました。ということは日本でもかなりユニークな商品ではないかと思う。
審査の際はパッケージのみを判断して評価をしたが、ちょっとレトロな色づかいとタイポグラフィー。「ねこ」のシルエットとお椀のシルエットの組み合わせなど、デザイナーのセンスが良い感じで仕上がっていた。「ねこまんま」のネーミングには一部の審査員から難点を指摘されたが、気負いのないデザインのトーンを考慮してその点は理解されて、総体的に評価された。（後日味賞味良）

20

奨励賞 日用品部門
「ふとらん米」

企業　：良品工房 株式会社
　　代表取締役社長 重松克則
デザイン：株式会社 デザインQ
　　代表取締役社長 古賀久則

●審査講評 大倉紀子
ワコールの「スゴ衣」という肌着や、ユニクロの「ブラトップ」など、商品の機能がダイレクトに反映されたネーミングが増えている。経済不安の中では、わかりやすいことが大切なビジネスポイントとなる。この「ふとらん米」は、商品の内容もネーミングも新鮮である。お米はメタボ対策の対極にあるものと思っていましたが、説明書にあるようにカロリーカットできるとすれば素晴らしい。女性の6割は痩せることに興味を持つ日本であるため、潜在の需要ははかりしれません。機能性がもう少し強調されるパッケージでも良かったのではないかと思う。

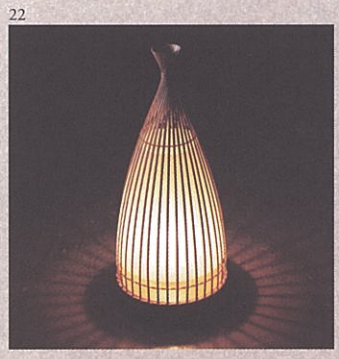
21

奨励賞 家具・インテリア部門
「キミ」

企業　：株式会社 アダル
　　代表取締役社長 武野重美

●審査講評 下川一哉
アダルの「キミ」は、ハイバックのチェア。ハイバックのチェアの場合、シャープさを追求するあまり硬い印象になりがちだが、キミは優雅に湾曲した背もたれを持つため、シャープな中に柔らかな表情を秘める。デザイン性が優れるうえ、4万円台の価格設定のため、和・洋・中を問わずさまざまな飲食店に採用できる点も、使い勝手が良い。こうしたハイバックのチェアの場合、いす前方から見たフォルムやバランスはもとより、いす後方から見たスタイリングが重要な要素となる。この点では、ブラッシュアップの余地が残されているように思う。

22



奨励賞 家具・インテリア部門
「細竹フロア照明」

企業　：株式会社 久留米井筒屋 筑後文化村
　　取締役社長 井上雄二

●審査講評 松下美紀
薄竹の縁巻きと竹の柾割の三次曲面のフレームへ、八女の手漉き和紙が提灯貼りされた細竹スタンドである。繊細な竹職人の技術と手漉き和紙の質感、そこに和紙の提灯張り職人が手作業で仕上げた、それぞれの職人の技術が融合した照明器具となっている。手作りの良さと素材の持つ柔らかなデザインが評価された。照明器具として光が灯ったとき、床面へ美しい影が現れてより存在感が強調される。日常的に利用することを考えると、このデザインにとどまらず、さまざまなサイズやフォルムのバリエーションが増えることを期待している。

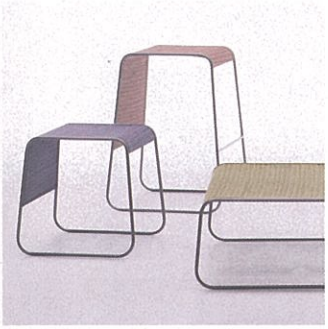
23

奨励賞 家具・インテリア部門
「WAZA2シリーズII」

企業　：クレアプランニング 株式会社
　　代表取締役 中田泰之
デザイン：株式会社 環設計工房
　　代表取締役 鮎川透

●審査講評 松下美紀
ハイチェスト形「華」と半円形チェスト「雅」は家具と建具が融合した大川家具である。どちらも前面の引戸は同一線上の組み格子で9mmの白木で製作された建具である。その繊細さと正確さで開けた時の重なり具合がとても美しい。天板側面は杉材のうづくりで、白木の表情を浮き出すために黒塗装が施されている。「華」はバランスの美しさ、「雅」は曲面加工という職人の技術が評価された。内蔵された間接光が灯ることによって生まれる光と影のあやが、技術の高さをより表現している。手作りの格子にもかかわらずスムーズな動きと軽さに驚かされた。

24



奨励賞 家具・インテリア部門
「IGSA series〈ラウンジチェア〉〈ローテーブル〉〈ハイスツール〉〈スツール〉〈ロースツール〉」

企業　：株式会社 添島勲商店
　　代表取締役社長 佐々木徹
デザイン：クリエイティブノルム
　　デザイナー 清水慶太

●審査講評 森田昌嗣
他国ではつくれない良質のイグサ製品を海外にアピールし、イグサ産業の新たな境地の開拓を目指した、イグサ製のチェアー、スツール、テーブルを備えた〝IGSA series〟。畳に触れる生活、イグサの香りと触感、そして美しさは、日本が世界に誇れる感性価値の一つである。畳や蓙が生みだす感性を、椅子座の現代的生活スタイルに展開したのが〝IGSA series〟である。スタイルの和風ではなく、和の精神を、繊細なメタルフレームに支えられて浮遊するイグサの座面や天板がつくりだすモダンなデザインは、まさにJAPANブランドといえる。

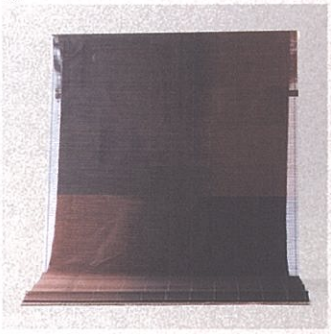
25

奨励賞 家具・インテリア部門
「石鹸塗料 NEW-SOAP-FINISH『WENNEX ヴェネックス』」

企業　：まるは油脂化学 株式会社
　　代表取締役 林 眞一
デザイン：関光デザイン事務所 代表 関光信也
　　福岡県工業技術センター
　　化学繊維研究所 所長 長谷部建二

●審査講評 森田昌嗣
ソープフィニッシュ『WENNEX×ヴェネックス』は、無垢の木が持つ質感を損なわず成分も健康と地球環境に配慮した石鹸成分とミネラル水でつくられた塗料。無垢の木目を活かした家具や玩具が見直されている現代において待望していた商品であり、従来のソープフィニッシュになかった撥水性を付与し、より手軽に手入れができる。独自に開発され特許出願中の石鹸成分を主とするA液とミネラル水を基本とするB液の2液性方式を簡潔なパッケージデザインにまとめている。今後は、AかBの記号表記だけでなく、より直感的に2つの容器を識別できるデザインを期待したい。

26



奨励賞 家具・インテリア部門
竹すだれの間仕切り（パーテーション）・タペストリー・ブックカバー

企業　：結乃竹 代表 辻良子

●審査講評 森田昌嗣
福岡をはじめ九州特産の孟宗竹や真竹を使い、繊細な竹ひごに加工し手染めによる空間を彩る竹すだれの商品群。竹製品はアジア諸国を中心に安価な商品が数多く生産され販売されている。竹製品を取り巻くわが国の状況は厳しく、価格や量的な競争では他のアジア諸国に対抗できないのが実情といえる。そういった状況の中で、竹ひごの手触りの良さやぬくもりを出すために緻密な加工を重ね、さらに手染めの和の彩りを添えた本商品は、日本が牽引しうる技術と感性を融合したデザインであり、わが国における竹産業の量から質への転換の可能性を示唆している。

27

奨励賞 産業・商業機器部門
「ELS-o2」

企業　：三和システム 株式会社
　　代表取締役社長 森光実紀雄

●審査講評 平田敬一郎
生産設備、ビル、家電はインバーター制御やスイッチング電源などにより省エネ化が図られたことにより、従来方式の漏電検知システムでは十分な検知感度が得られず漏電事故を防ぐことが難しい状況になってきている。ELS-o2は新しく開発されたIGRセンサーを用いることにより、どのような電気設備の漏電も高精度に検知可能とした装置である。これを使うことにより漏電事故を高度に防止することができ保守点検費用なども低減できるものである。フロントパネルも十分に検討されており操作性については取扱説明書を見なくても使えるデザインとなっている。

28

奨励賞 産業・商業機器部門
「IDOSYS（井水利用ユニット）」

企業　：昭和鉄工 株式会社
　　代表取締役社長 山本駿一

●審査講評 平田敬一郎
エコキュートは省エネルギー性に優れ、CO2排出係数も低く環境に優しい貯湯システムとして普及が大きく進んでいる。ただし、使用する水は水質の問題から上水道に限定され、井水の使用は厳禁である。家庭用では大きな問題となっていないが業務用を考えた場合、井水使用の要望が潜在的にある。これを解決したのが井水利用ユニットであり、ヒートポンプ回路と井水回路を高効率熱交換機を介して回路を分断すると共に熱交換も行い井水貯湯を可能としている。問題となる耐圧性能、ツマリ、腐食へも十分な対策が施され、エコキュートの新たな展開普及を可能とした製品である。

29

奨励賞 産業・商業機器部門
「楕円鋼管」

企業　：フジワラ建装
　　社長 藤原みどり

●審査講評 平田敬一郎
市街地における深掘削工事は、限定された作業空間の中で短い工期で安全に作業を進めなければいけない。
この製品は新たに開発されたスポット土留め工法に使用するもので鋼板と鋼管を組合せて短い楕円鋼管を形成し、穴深さに合わせて数個を連結し1つの土留め鋼管として機能させるものである。楕円管にすることにより十分な作業空間を確保でき、分割構造にすることにより作業終了時、管を引き上げる際の初期引上げ力を低減できる。工事の安全性、工期短縮、工費の低減を可能とさせる技術である。

30

奨励賞 地域産品部門
「アクセサリータッセル」

企業　：有限会社 今里 代表取締役 今里亨
デザイン：垣田健一郎デザイン事務所
　　代表 垣田健一郎

●審査講評 下川一哉
今里は、八女提灯の房を作るメーカー。長年、提灯の1パーツを作ってきたが、この房を作る素材と技術を使って、ファッション小物の開発に取り組んでいる。今里の房の魅力は、軽やかに1本1本が規則正しく揺れる優雅な姿と表情にある。
人の動きや吹き抜ける風に舞う房の一瞬の表情に、目を留めてしまう。こうした房と、漆工芸などを組み合わせたアクセサリーには魅力と可能性を感じる。サイズやカラーリングなど検証しながら、異分野のさまざまな工芸との共同開発に活路を見出せるだろう。「和」の世界にこだわらず、「洋」の装いにも挑戦してほしい。

31

奨励賞 地域産品部門
「線香花火」

企業　：株式会社 久留米井筒屋 筑後文化村
　　取締役社長 井上雄二

●審査講評 森田昌嗣
「ワシャー線香花火にかけては、だれにも負けんバイ！」という花火師の意気込みを、桐箱に入れたギフト商品・筑後産〝線香花火〟に結実させた。美しい花火を出すために、八女手漉き和紙と松煙を使用する花火師の線香花火のこだわりを、筑後産の乾燥剤の炭を添えた筑後産の桐箱に収めるこだわりが、この商品を生んだ。花火師のこだわりと、筑後産でギフト商品化するこだわりが、火花の広がりと「火玉」が落下しない線香花火、その日本人の繊細な美意識を送るデザインを生みだした。こだわりのコラボレーションこそが、日本の感性価値を創造する原動力となる好例といえる。

奨励賞

Encouragement prize

32

奨励賞 地域産品部門
「博多織献上柄 ちょっと上質なエコバッグ」

企業　：筑前織物 株式会社
代表取締役社長 丸本繁規

●審査講評 松下美紀
くるくるとまるめて、バッグインバッグで持ち運べる、博多織の帯地で作られた献上柄のエコバッグである。歴史と伝統を有する博多織は、上質な絹織物ながら薄くて丈夫である。この素材の利点をエコバッグとしてデザイン。内部は大きなファスナーで2つに間仕切りが出来る。撥水加工が施工されており雨の日でも気軽に持ち歩ける。
和装のみならずモノトーンなファッションや男女を問わず持つことが出来るシンプルなデザインが評価された。エコバッグとしては袋にマチがないことで使用範囲が狭いので、今後は用途や機能などを考慮し、更なる改良を期待したい。

33

奨励賞 医療・福祉・環境・教育機器部門
「車いす専用
着せ替えシートカバー『vangero FIGO』」

企業　：ウラノ ヴァンジェーロ ポルト
代表 浦野智光

●審査講評 大歯滋喜
現在流通している車いすは、地味でオーソドックスなものが殆どである。その車いすのシートに、ファッション感覚で自由に着せ替えができるシートカバーを開発した。
車いすを利用するユーザーにとって、車いすはファッションの一部であり、「自分のオシャレに合わせて車いすも着替えたい」と考える方も多い。シートを替えるだけで、出かけるのが楽しみになり、ライフスタイルがもっと楽しいものになる。車いすユーザーの皆さんや、その家族を明るく元気にさせるところが評価された。

34

奨励賞 医療・福祉・環境・教育機器部門
「サンクリア景観サイン」

企業　：有限会社 完装
代表取締役 深見和己

●審査講評 大歯滋喜
室見川河畔公園でトイレの場所を案内するサインである。路面に「方向」と「距離」を100m位おきに反射シートで標示している。低い位置での標示であり、従来の立型方式の標示に比べ景観を損なうこともなく、公園利用者からの評価も高い。前年度に奨励賞を受賞した「自転車の注意喚起イメージパンプV」の姉妹品であり、イメージパンプVは福岡市内の5箇所で試験施工され、自転車の事故防止に効果をあげている。更に、避難誘導標示、通学歩道、自転車専用道路、公共施設での案内標示サインなど、路面に標示するサインの分野の確立を期待する。

特別部門賞

Special section prize

38

特別部門賞 県内デザイナー×県外企業部門
「UNDER CASTLE」

企業　：グンゼ 株式会社
代表取締役社長 平田弘
デザイン：株式会社 ジッジーノ
代表取締役 下城進一郎

●審査講評 森田昌嗣
生地や縫製のクオリティを重視し、国内での生産にこだわる大手下着メーカーとのコラボレーションした男性用のアンダーウェアー。着心地にも秀でた下着の機能を備えながら、服を脱いでも着ても、調和の美のデザイン性を確立し、アンダーウェアをファッションに昇華させた新提案の商品である。特に、2008年3月に開催された東京コレクションに、初のアンダーウェア専門ブランドとして参加するなど、"魅せる魅せられる"アンダーウェアの次代の可能性を拓いたことが高く評価される。
※特別部門賞は福岡産業デザイン賞審査委員と応募企業の投票により決定しました。

35

奨励賞 医療・福祉・環境・教育機器部門
「ポリカーボネート（PC）
二重サッシ化断熱防音システム」

企業　：クボタエコシステム・ジャパン研究所
所長 久保田智

●審査講評 大歯滋喜
二重ガラスや二重サッシが、防音、断熱性に優れていることはよく知られている。この商品は、既存の窓ガラスに、後付でPCのサッシを安価で容易な方法で施工することによって、透明な二重サッシを提供する。（特許工法）防音、断熱効果は、高断熱複層ガラス並みの値が得られている。使用されるPC板は、空気層を持つ中空構造をしているため、ガラスの2倍の断熱・保温効果を発揮する。施工方法も引戸式のインナーサッシ、和室の障子にも適合するサッシ、雨戸の二重空気層対応など、あらゆるサッシに対応する工法が開発されており、徹底した省エネの追求姿勢が評価された。

36

奨励賞 医療・福祉・環境・教育機器部門
「雨傘のしずく拭き取り器
『すいとるクリーン ピュア』」

企業　：有限会社 日ノ出
代表取締役社長 白石芳則
デザイン：ケース・プランニング
代表 尾崎敏生

●審査講評 宮本一伸
雨のしずくを拭取る機能を有し、雨傘用のビニール袋の使用を無くす事を目的に開発された製品である。ビニール袋の使用はゴミ処理や床面の濡れによる滑り、また環境の面から欠点も多く、環境を配慮した当該機能商品の市場性は大きいと考える。さらに、本商品は、本体に巻き付けるシート状の広告を簡単に差し換える工夫を加え、設置環境拡大の可能性を提示している点が評価された。今後、傘のしずくを取る際のユーザー心理や一度に多くの人に対応しなければならない設置環境でのコスト検討を含め、さらなる研究開発による設置拡大に期待したい。

37

奨励賞 医療・福祉・環境・教育機器部門
「水紙」

企業　：有限会社 ペーパーワークス
代表取締役 松崎あずさ

●審査講評 宮本一伸
牛乳パックを再生利用し原料に一切の科学物質を含まない、塗り壁用内装仕上げ材であり、住宅用建材として安全性の高さと手漉き和紙の優しい肌触りや、多彩なカラー、仕上げ加工性の高さを謳った商品である。他にも吸湿脱臭効果の高さも特長としているが、当該市場には同等の機能性を有した住宅用建材も散見されるため、他社の比較商品との突出した特長が必要であろう。商品のコンセプトが大量生産・大量販売を目指さないことから、仕上げ加工性の高さに加え、手漉き和紙の優しい肌触り等のさらなる研究開発を行ない商品機能のアップによる販売拡大を期待したい。

福岡産業デザイン賞 ノミネート商品展示会／表彰式／デザインシンポジウム

Nominating Product Show / Commendation Ceremony / Symposium

"THINK ABOUT DESIGN"

売れる商品を開発する上で、デザインの役割はますます重要になっています。福岡産業デザイン賞は、企業のデザインの向上と生活者のデザインマインドの高揚を目的に、県内で生産された製品の中から特に、市場性・デザインクオリティ・オリジナリティーの高い商品を表彰・推奨しています。

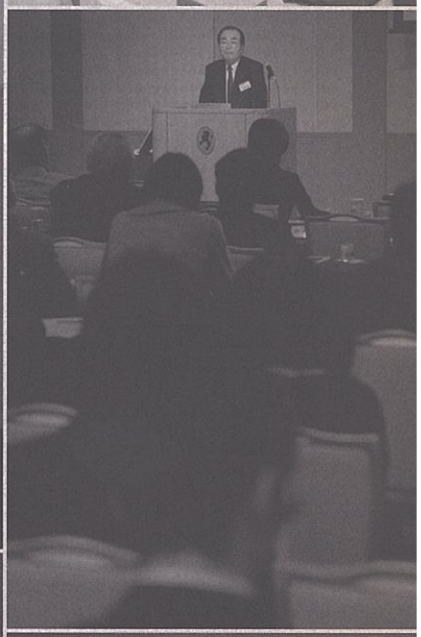
また、企業の方々にはデザインを身近な経営資源として、もっと活用していただき福岡県から素晴らしいヒット商品が生まれるきっかけづくりを目指しています。

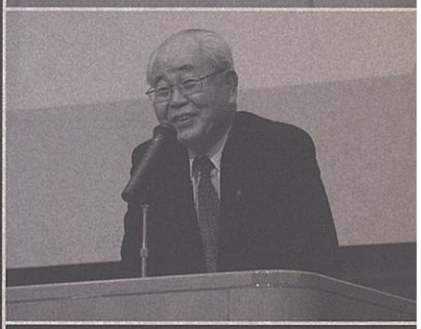
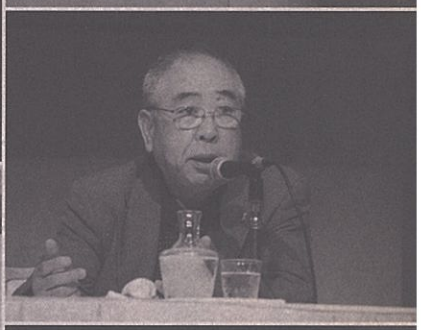
2008年11月13日(木)、14日(金)の2日間はノミネート商品の展示会及び入選者の発表、表彰式と併せて、第一線で活躍されているデザイナー等を講師に迎えモノづくりとデザインについて商品開発の実例を交えながら参加者と一緒に考えるシンポジウムを開催しました。

TOTOの山野秀二氏による「ビジネスにデザインと知的財産を活かす」。森田昌嗣氏、原口彰氏、定村俊満氏、三氏のクロストーク。最終日は多方面でご活躍の廣村正彰氏による「デザインのできること。デザインのすべきこと。」というテーマで講演を行っていただきました。

シンポジウム講演右ページ大きな写真上／ひろむら まさあき　1954年愛知県生れ。77年田中一光デザイン室 入社。88年廣村デザイン事務所設立。特種製紙株式会社AD顧問。株式会社紀ノ国屋AD顧問。　主な仕事／岩出山中学校サイン計画。埼玉大学サイン計画。函館みらい大学UI。日本科学未来館CIサイン計画。CODAN東雲VI計画。丸ビル宣伝計画。日産自動車デザインセンターサイン計画。奈良平城遷都1300年記念事業マーク。横須賀美術館VI。07年ギンザ・グラフィック・ギャラリーにて『2D→3D』展開催。　著作／『空間のグラフィズム』六耀社。『デザインのできること デザインのすべきこと』ADP。『世界のグラフィックデザインシリーズggg Books』ギンザ・グラフィック・ギャラリー。

右ページ大きな写真下／やまの しゅうじ　TOTO株式会社 知的財産部。1955年山口県生まれ。愛媛大学工学部機械工学科卒業。87年吉田工業株式会社(現YKK)を退社し、東陶機器株式会社(現TOTO)へ入社、現在に至る。九州大学大学院工学府非常勤講師、九州大学技術移転推進室アドバイザ・「特許よろず相談」相談員、北九州TLO協議会委員等を歴任。現、株式会社産学連携機構九州(九州大学TLO)顧問、九州経済産業局 特許セミナー講師、九州経済連合会 知的財産権研究会 運営委員長。



●委員長

森田昌嗣 氏

九州大学大学院芸術工学研究院 教授／デザインディレクター

ものづくりにおけるデザイン活用の役割は、新しい価値の創造であると考えます。高度成長期においては、大量生産による低価格化、品質重視の高付加価値化のいずれかであり、デザインは後者の役割を担ってきました。しかし現在、ユーザーのニーズは、価値におかれ、価格と品質のバランスで価値を評価する時代になりました。そこでデザインは、デザイン本来の役割であった、ものの技術と人の感性を結びつけ価値を創造することです。福岡産業デザイン賞は、デザイン活用による価値創造を表彰し、次代を拓く産業を後押しする役を担っています。

●委員

大倉紀子 氏

株式会社ジャンヌマリー 代表取締役

デザイン、機能、価格のいずれかが優れていればヒットする。そんな時代は終わりました。全てを満たしその上、売り方の提案までも要求される時代です。まさに、ものづくりの現場にとって、受難の時と言えそうですが、マイナス面ばかりではありません。今世紀に入り、物流のグローバル化が飛躍的に進みました。より大きな可能性を求め、個性にあふれた国内メーカーが、世界にうってでる大きなチャンスの到来とも言えるでしょう。

●委員

大歯滋喜 氏

福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長／昭和鉄工株式会社 専務取締役

福岡県産業デザイン協議会は「福岡産業デザイン賞」を中心に、それをサポートする「デザイン開発ワークショップ」「産業デザインフォローアップ事業(補助金)」「交流促進事業」を実施しています。(協議会のホームページを参照してください)このサークルを回すことで、デザインを必要とする企業を支援してまいります。サークルに参加することで、開発技術を高めてください。デザイン賞に応募することで、センスを磨いてください。賞にもれた商品に可能性を感じさせる物が沢山あります。デザイナーのみなさんが、これらの商品に積極的に光を当ててくださることを切望します。

●委員

かねこしんぞう 氏

グラフィックデザイナー／株式会社インデックスプラス 代表取締役

これからの10年間、産業とデザインを結ぶ言葉として、「ブランディング」と「ステークホルダー」という概念が益々重要になっていくと思います。情報や制作としてのデザインから、経営や企業活動や、組織のあり方までを包括する概念だからです。社会構造を支えるネイションや企業や団体などの組織体から、シチズン・消費者に至るまでの、デザインの活用は、技術を超えた価値思考の共有化の時代に入ったのではないでしょうか。

●委員

平田敬一郎 氏

福岡県工業技術センター 機械電子研究所 所長

私は、地域企業の新製品開発などの「ものづくり」の支援を行っていますが、「ものづくり」は売れるものとして計画されなければいけません。「もの」として世の中に実在させるには技術の確かさはもとより技術から発現される機能性、実現性、経済性、社会情勢等々が総合されなければなりません。このことをデザインと呼ぶのでしょうか？　技術とデザインを融合することが福岡産業デザイン賞の目的のひとつであります。もう一度この目的に回帰し「本物の技術とは」を考えたいと思っています。最後に、このたび受賞された企業の方々の更なる発展をお祈りしております。

審査委員 福岡産業デザイン賞 10周年記念メッセージ

Message for 10th Anniversary

10/10 CO

●委員

松下美紀 氏

株式会社松下美紀照明設計事務所 代表取締役

物事の本質を見極められる力、つまりコンセプチャルスキルの高いデザインが求められています。このデザインで売り上げが上がるのか、企業にどのくらいの利益をもたらすのかといった力が必要です。コンセプチャルスキルの高いデザインやデザイナーは地域にとらわれず軽く国境を越え、大きな目標を達成することが可能です。そこで福岡産業デザイン賞はデザイン性の評価に留まらず、グローバルに活躍できるデザイナーや伝統工芸存続に絶対的な後押しができる役割となることを期待しています。

●委員

宮本一伸 氏

株式会社アイム 代表取締役

デザインを真に「経営資源」化するための取り組みは既に自動車、家電、通信機器等、多くの業界で実践され、デザイン性の評価が商品価値を決定付ける重要な要素として社会にも認められている。私は、「経営資源」とは知財や技術、営業手法のように「経営の仕組み」の中で作用して初めてその有効性が発揮・評価されるものであり、同じようにデザインも「経営の仕組み」との相関性を元に評価なされるべきものと考えている。

●ゲスト審査委員

下川一哉 氏

日経デザイン 編集長

今回、初めて、福岡産業デザイン賞の審査に当たった。まず、福岡県が擁する産業の多様性に驚いた。北九州地区を中心とした先端産業だけでなく、県内に散在する伝統工芸、エネルギーあふれる商業都市が生む食文化など、さまざまな素材、技術、文化がこれほど多層的に集積している県は決して多くない。日本のモノ作りにおいて、こうした有形無形の地域資源を活用することは急務であり、ここから新しいメード・イン・ジャパンの姿が見えてくるに違いない。福岡産業デザイン賞の継続を通して、福岡県が新しい日本のモノ作りのリーダーシップを執ることに期待せずにいられない。

●ゲスト審査委員

廣村正彰 氏

デザイナー／株式会社廣村デザイン事務所 代表取締役

「デザインする」意味が大きく変わってきています。単なる表面的な表現だけではなく、考え方や概念を伝えるための仕組みを作ることからデザインが始まります。商品や製品などは、ものづくりの現場とデザインが密接な関係をもつことが成功の鍵になるでしょう。このことは地域の物産や工芸でも同じことで、福岡では10年前からこの産業デザイン賞を通しデザインの重要性を伝えられてきたことが大きな成果として表れていると感じました。

●ゲスト審査委員

中村眞人 氏

株式会社井筒屋 会長

産業デザイン賞10周年、おめでとうございます。社会の成熟化が進み、消費者ニーズは大きく変化した昨今、消費者の価値観は多様化し、商品の開発、販売展開には、〝マス〟から〝個〟への変化と対応が求められております。その中で、福岡県での産業デザインは、年々着実なレベルアップがなされて、今日に至っております。これからも、県内地元企業、デザイナーなどの新たな着眼点、優れた企画力、開発力、英知が結集した素晴らしいデザイン、ものづくりが行われるよう、十分な環境が整えられることを期待いたします。また、デザイン賞を受賞された製品が、広く消費者に認知される場が創設され、経済的効果が顕著に出るような施策が実施されることも、併せて期待いたします。

OMMENTS

福岡産業デザイン賞 各年の審査委員

Judge of Fukuoka Design Award

1999年
委員長　森田昌嗣(九州芸術工科大学 教授)
委　員　中西元男((株)PAOS 代表)
委　員　黒木靖夫((株)黒木靖夫事務所 代表)
委　員　石田和男(九州松下電器(株)総合デザインセンターリーダー)
委　員　加生幸彦(東陶機器(株)デザイン本部主幹)

2000年
委員長　森田昌嗣(九州芸術工科大学 教授)
委　員　中西元男((株)PAOS 代表)
委　員　河北秀也((株)日本ペリエールアートセンター 代表)
委　員　石田和男(九州松下電器(株) 総合デザインセンターリーダー)
委　員　加生幸彦(東陶機器(株) デザイン本部主幹)

2001年
委員長　森田昌嗣(九州芸術工科大学 教授)
委　員　長澤忠徳((有)長澤忠徳事務所 代表、武蔵野美術大学 教授)
委　員　佐藤俊郎((株)環境デザイン機構 代表取締役)
委　員　宮本一伸((株)アイム 代表取締役)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 常務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)

2002年
委員長　森田昌嗣(九州芸術工科大学 教授)
委　員　長澤忠徳((有)長澤忠徳事務所 代表、武蔵野美術大学 教授)
委　員　島田一郎((有)TRIGONAL DESIGN SYSTEMS 代表)
委　員　かねこしんぞう((有)インデックス・コムズ 代表取締役)
委　員　佐藤俊郎((株)環境デザイン機構 代表取締役)
委　員　宮本一伸((株)アイム 代表取締役)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 常務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)

2003年
委員長　森田昌嗣(九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　深澤直人(Naoto Fukasawa Design 代表)
委　員　勝尾岳彦(日経デザイン 編集長)
委　員　かねこしんぞう((有)インデックス・コムズ 代表取締役)
委　員　長峰秀鷹((有)NT DESIGN 代表)
委　員　宮本一伸((株)アイム 代表取締役)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 常務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門 委員長)
委　員　宮下征一(福岡県工業技術センター 副所長)

2004年
委員長　森田昌嗣(デザインディレクター・九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　黒川雅之(黒川雅之建築設計事務所 主宰)
委　員　島田一郎((有)TRIGONAL DESIGN SYSTEMS 代表)
委　員　かねこしんぞう((有)インデックス・コムズ 代表取締役)
委　員　鮎川透((株)環・設計工房 代表取締役)
委　員　平井康之(九州大学大学院芸術工学研究院 助教授)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 常務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)
委　員　加生幸彦(東陶機器(株) デザインセンター主幹)

2005年
委員長　森田昌嗣(デザインディレクター・九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　桐山登士樹((株)TRUNK 代表取締役)
委　員　鮎川透((株)環・設計工房 代表取締役)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 専務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)
委　員　加生幸彦(東陶機器(株) デザインセンター主幹)
委　員　かねこしんぞう((有)インデックス・コムズ 代表取締役)
委　員　清須美匡洋(九州大学大学院芸術工学研究院 教授)

2006年
委員長　森田昌嗣(デザインディレクター・九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　池田美奈子(九州大学大学院芸術工学研究院 助教授)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 専務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)
委　員　かねこしんぞう((有)インデックス・コムズ 代表取締役)
委　員　楠林拓(近畿大学産業理工学部 建築・デザイン学科 講師)
委　員　中村治二(松下電器産業(株) パナソニックデザイン社 参事)
委　員　松岡恭子((株)スピングラス・アキテクツ 代表取締役)
ゲスト　原研哉(武蔵野美術大学 教授、㈱日本デザインセンター 代表取締役)

2007年
委員長　森田昌嗣(デザインディレクター・九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　池田美奈子(九州大学大学院芸術工学研究院 准教授)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 専務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)
委　員　かねこしんぞう((株)インデックス 代表取締役)
委　員　楠林拓(近畿大学産業理工学部 建築・デザイン学科 准教授)
委　員　中村治二(松下電器産業(株) パナソニックデザイン社 参事)
委　員　平田敬一郎(福岡県工業技術センター機械電子研究所 所長)
委　員　松岡恭子((株)スピングラス・アキテクツ 代表取締役、東京電機大学 未来科学部 准教授)
ゲスト　近藤康夫(デザイナー/九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
ゲスト　左合ひとみ((株)左合ひとみデザイン室 代表取締役)
ゲスト　橋本茂宏((株)ロフト 執行役員 西日本第2営業部 部長 兼 天神ロフト 館長)

2008年
委員長　森田昌嗣(デザインディレクター・九州大学大学院芸術工学研究院 教授)
委　員　大倉紀子((株)ジャンヌマリー 代表取締役)
委　員　大歯滋喜(昭和鉄工(株) 専務取締役、福岡県産業デザイン協議会 企画専門委員長)
委　員　かねこしんぞう((株)インデックスプラス 代表取締役)
委　員　平田敬一郎(福岡県工業技術センター機械電子研究所 所長)
委　員　松下美紀((株)松下美紀照明設計事務所 代表取締役)
委　員　宮本一伸((株)アイム 代表取締役)
ゲスト　下川一哉(日経デザイン 編集長)
ゲスト　廣村正彰((株)廣村デザイン事務所 代表取締役)
ゲスト　中村眞人((株)井筒屋 会長)

※審査委員の所属・役職は在任時のものです
※ゲスト…ゲスト審査委員

FUKUOKA DESIGN AWARD '08 / 10th ANNIVERSARY

Publishing by
Fukuoka Industrial Design Association /
Fukuoka Prefectual Government
Phone 092 643 3435 Fax 092 643 3436
URL, http://www.joho-fukuoka.or.jp/fsandkyo/
MAIL, design@asias-kyusyu.com
ADD, 7-7 Higashi Kouen, Hkata-ku, Fukuoka City
Fukuoka 812-8577 Japan

Copyright 2009.
The Trustees of
Fukuoka Industrial Design Association /
Fukuoka Prefectual Government
Publishing Right Trust.
All Rights Reserved.

Art Direction and Design by
SHINJI SADAMATSU / This Design inc
Phone 092 737 5134
Fax 092 406 1203
URL, http://www.thisdesign.jp/
MAIL, this@thisdesign.jp
ADD, Akasaka Noda Bldg. 3F 1-6-22 Akasaka,
Cyuo-ku, Fukuoka City 810-0042 Japan

Photograph by
TOMOFUMI YAMADA / Studio hál
Phone & Fax 092 413 6123
MAIL, sthal68@ybb.ne.jp
ADD, 3-9-12 Kamimuta, Hakata-ku,
Fukuoka City 812-0006 Japan

Printing Consult by
EAST ASAHI Co.
Phone 099-266-5522
Fax 099-266-5523
MAIL, east@po4.synapse.ne.jp
URL, http://www4.synapse.ne.jp/east/
ADD, 3-30-7 Minami Sakae,
Kagoshima 891-0122 Japan

Cooperation by
JAGDA FUKUOKA

Special Thanks /
Copywriter
KAZUYUKI NAGAHATA / Index Plus Co.

10th Anniversary

FUKUOKA DESIGN AWARD

福岡産業デザイン賞 受賞商品集

福岡県産業デザイン協議会　〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7-7　福岡県商工部 新産業・技術振興課内 電話o92-643-3435 ファックス o92-643-3436